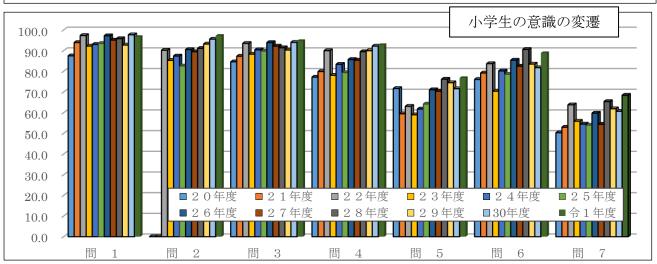
令和 元 年度 特別の教育課程の実施状況等について 児童生徒の意識調査・自己評価・学校関係者評価等による検証結果

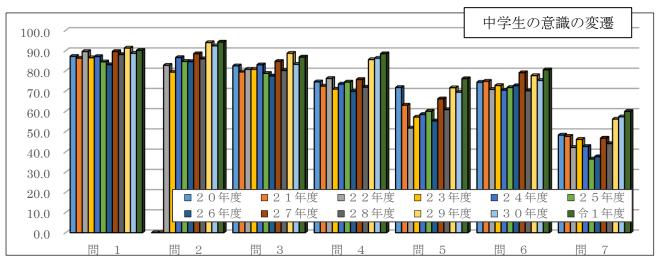
1 児童生徒の意識調査より

「相手意識に立つものづくり教育」を学ぶ市内11小中学校の児童生徒の意識調査(下図)を継続してきている。この調査の結果から、当初のねらいに迫る成果が得られてきているものと考える。 (教育特区として始めた平成20年度から実施) (各問いに1 or2 と回答した児童生徒数の割合)

《年度末に実施している意識調査の質問事項》 (問1~問7は一つを選択、問8は自由記述)

- 問1 ものづくり科の学習での「ものづくり」や「地域企業での体験」などは、楽しい(好き、おもしろい、うれしいなど)と思いますか? (次の一つに○を)
 - 1. とても思う 2. すこし思う 3. あまり思わない 4. まったく思わない
- 間2 ものづくり科の学習に積極的に取り組むことができましたか?
- 問3 ものづくり科で学習したような製作や体験を次の学年でもしたいですか?
- 問4 ものづくり科の製作や体験を通して、友だちや家族、まわりの人など「相手の気持ちや願い・ 希望」などについて考えることの大切さを感じるようになりましたか?
- 問5 ものづくり科の製作や体験を通して、「学校の勉強と働くこと」や「自分の将来の夢などとの つながりや関係」を考える(気にする)ようになりましたか?
- 問6 ものづくり科の製作や体験を通して、将来、社会へ出たら「必要になること・考え方」や「大切なこと」などを考える(気にする)ようになりましたか?
- 問7 ものづくり科の製作や体験を通して、ものづくりのことや、将来の夢や目標などについて、家 族や友だちと話したり考えたりするようになりましたか?
- 問8. ものづくり科の学習や体験を通して「考えたことや感じたこと」を自由に書いてください。





2 児童生徒の自由記述より (上記調査 質問項目問8の記述より一部抜粋) 【小学生の記述から】

- ○ただ作るだけじゃなくて、使ってくれる人のことを考えることが大事だと思いました。
- ○地いきの人や関わった人などを通して、いろいろな人との会話がうまくなったように感じる。
- ○私は、日本の技術とかすごいなと思った。
- ○私は、ものづくりを通して、地域の人が行っていることを深く知ることができるようになったので良かったです。
- ○ものづくりは図工と違って自分の材料だけもらってそれを自分の好きなように切ったりぬったりできる。これをもっとたくさんやれば創造力がつき、未来で生かせると思いました。
- ○ものづくり科の学習をして、ものづくりは最初に計画を立てた方がよかったなど、いろんなことがこの 学習で分かり、考えられました。
- ○みんなで協力してものづくりをするのは面白いと思った。
- ○他人にあげるものをより良くするためにやらなければいけない事(が分かった)。
- ○使う相手のことを考えてものづくりをすることができた。2度作りをして失敗したところなどは工夫できたので良かった。
- ○家族や友だちにあげるものを作る時は、相手が喜ぶようなものを作るといいことが分かりました。図工 の「自分のため」に作るのではなく、ものづくりの「だれかのため」にということを意識してやること ができました。
- ○二度作りをするから相手の気持ちも考えられるんじゃないかと思いました。
- ○他人の想っていることを参考にしたり、人の気持ちを考えたりするようになった。不器用でも「楽しくやる」ということが大事だと感じた。
- ○将来の夢で、機械を作る仕事について、高れい者やしょうがい者を楽にしたい。
- ○量も必要だけど、それをていねいに作ることで、たくさんの人がよろこんでくれるから、これからもていねいにやりたい。
- ○実際にものづくり体験をして、人に喜んでもらうための工夫の大切さや、今までとは違うものづくりの 面白さを改めて知りました。
- ○いろいろな人から色々なことを聞いて、その人にあった希望をしっかり考えて、その人が喜ぶものを作れました。ものづくりを楽しく思えるようになりました。

[中学生の記述から]

- ○大人の方たちが行っている仕事を実際に見ることで、将来の仕事について真剣に考えるようになった。
- ○作るということがあまり好きじゃないのですが、友達と協力してものが完成した時は達成感があった。
- ○自分達の周りの物も、自分達が作ったり見たりしたような物のように作られてきたんだなって思った。
- ○ものづくり科を通して、相手意識で作ることで完成した時の達成感や相手のことを思う大切さを知ることができた。
- ○自分が使っている物などは、誰かが作ってくれたからあるのだと改めて思うことができた。感謝をしな がら使っていきたい。
- ○ものづくりをすることは、とても一つ一つの動きが大切になっている。何か物を買う時は、その裏で誰かが動いている。
- ○諏訪は何もない所だと思っていたが、工業の中心になっていると知り、諏訪のすごさを知った。諏訪で 働いてみたいと思った。
- ○これが自分の家にあったらいいなぁ、ということを自分の中で感じながら製作ができました。
- ○自分だけじゃなくて、家族や周りが喜べるように考えながら学習しました。
- ○「相手のことを考えてものを作る」ことの大切さを知った。見学では各企業の思いやこだわりを知ることができて良かった。
- ○普段使っている物などは、地域にある身近な会社などが部品を作っているんだと知った。諏訪は、製造業(ものづくり)の町だと改めて分かった。
- ○その作品を作る「相手がいるからこそ、良いものにしないと」と思い、中途半端な物にならないように 作品製作に集中する事が出来ました。
- ○自分達が使っている日用品は、作るのはとても大変なんだなと思い、大切に使わなきゃいけないなと思いました。

◇意識調査結果より

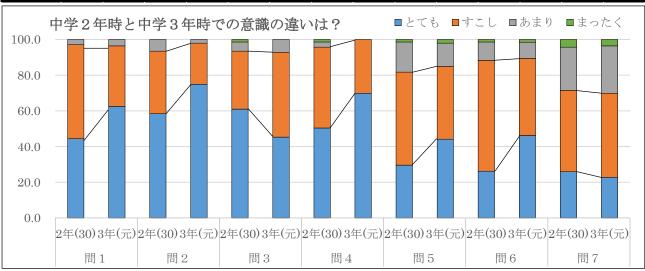
- ①問1から問3は、ものづくり教育の製作活動や諸体験を通して、ものづくり教育への興味・関心・意欲を把握しようとしたもの。調査対象の小学校5年生および中学校2年生は、毎年変わっていくものの、毎年各間に対して肯定的にとらえている児童生徒の割合は、小学校では80%から90%、中学校でもほぼ80%から90%弱を示しています。この結果について、他地区と比較検討する調査がないために優位性を主張するものではありませんが、子どもたちの興味関心を高めてきているものと考えている。こうした結果は、ものづくり活動自体が持つ魅力とともに、意図的計画的に「誰かのためのものづくり」「相手の要望や思いを形にする」という視点で「ものづくり」を体験したり製作したりしてきていることが背景にあるものと考えています。
- ②問4は、この教科を通して育成すべき教育的価値として捉えた「ひとづくり」の一つとして調査したものです。こうした資質は、ものづくりだけで形成されるものではなく、すべての教育活動や日常生活の中で総合的に形成されるものではあるが、こうした視点を意図的に設定し、児童生徒が意識する場を設けてきたことにより、小学生で80%前後を、中学生で70%前後を示してきています。中学生が小学生より10%ほど低い数値を示してきているのは、小学生より中学生の方が自分自身をより客観的に見るようになってきているからだと推測されます。
- ③問5から問7は、児童生徒のキャリア発達を促すためのキャリア教育の視点からの設定です。各問について、小学生よりも中学生の方が、肯定的な反応は全体的に低い傾向です。これは、自分の進路選択に向けて現実感を持ってきていることや、より自己理解の深化に伴う結果であろうと考えます。

この3つの問いのうち、問6については小学生・中学生ともに70%以上の数値を示しています。また、中学生の方が小学生よりも年度によるばらつきが少なくなっています。これは、日頃のものづくり科の授業や地域密着型ものづくり講座等の機会に地域社会の広い世代の方々との交流を通して、働くことやものづくりに打ち込む生きた姿を、五感を通して感じてきている結果の一つであろうと考えています。

3 ものづくり科の学習は、児童生徒のキャリア形成に資して来ただろうか。

(1) 年度末に卒業した中学生の2年時と3年時でのアンケート結果(同じ質問項目から

	問1		問2		問3		問4		問5		問6		問7	
	2年(30)	3年(元)												
とても	44.4	62.5	58.4	74.9	61.0	45.3	50.4	69.9	29.6	44.1	26.2	46.2	25.9	22.8
すこし	52.7	33.9	35.1	23.0	32.5	47.5	45.3	30.1	52.1	40.8	62.1	43.1	45.6	47.1
あまり	2.9	3.6	6.6	2.1	5.1	7.1	2.9	0.0	16.8	13.0	10.3	9.2	24.2	26.6
まったく	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0	1.4	2.1	1.4	1.5	4.3	3.6



(2) 上記調査と併せ、中学校3年生に9年間学習してきた「相手意識に立つものづくり科」の学習を振り 返る機会をもった。

「9年間のものづくり科の学習を振り返って」 (R2.2.調査 一部抜粋)

- ① (3年間の活動で) ・印象に残っている活動は? ・そこから学べたことは?
- ②ものづくり科での学びをどのように今後生かしていくのか

◇ O.K (男子)

- ①1年生の時に、家庭での要望を聞いて製作したものと、3年生の時のチャレンジショップに向けた ものづくりというのが記憶に残っている。どちらも、使う人の立場、使う人が何を求めているか、 ということを考えて製作していたと思う。また、3年生の時の学習では、品質に見合った価格、価 格に見合った品質、ということを考えて、いかに手に取る人が使いやすいか買いやすいか、という ことが考えられた。このことから「相手の目線になって考える」ということができたと僕は思う。
- ②ものづくり科を通して、まず「木工製品ならではの温かみ」を知る事ができた。また、手作業で も、それならではの愛着や物を大切にしようとする心ができたと思う。そして、前にも書いたよう に、物を扱う時、或は物が人の手に渡る時に「使う人が求めるもの」「使う人が使いやすいもの」を 作ることを心がけるようになった。そして、諏訪という土地柄、工業製品の生産や加工が盛んで、 小松製作所様にもお邪魔させていただいた。ものづくりを通して、人が使いやすい物、人が求める ものを追求するということがいかに大切な事か、というのが良く分かった。将来を通して、ぼくは "相手の目線に立って物事を考える"ということに、この学習を生かしたい。

◇ T.S (女子)

- ①3年間の中で、1番印象に残っているのは、1年生の時のお家の人の要望に対して友達が設計をし て自分が製作をする活動です。作るのが自分ではなく相手なので、設計の時に数値にズレがあると 完成しなくなってしまうので慎重にかきました。また、それを見ただけで分かるようにより詳しく かく事ができたと思います。これについて私は、設計をする時に丁寧にすること、正確にすること の大切さを学びました。
- ②小学校の時からものづくりの授業にずっと取り組んできました。ものづくり科の学習には、「ものを 作ったその先に、使う人がいる」という意識がいつもありました。中1の時だったらお家の人、中 2の時はハンガーを使う人、中3の時は商品を買ってくれるお客さんでした。だから、ものづくり 科で何かを製作する時、それを使う人は何を求めるか、より安全に便利にするにはどうすればよい のか、ということをたくさん考えて想像する力が付いたと思います。これは、これから何かをする 時に相手の事を考えて行動するということに役立つと思います。9年間を通して、より多くのこと を学べたので良かったです。

◇調査結果より

- ①(1)の比較調査より、それぞれの質問項目について"肯定的にとらえている生徒の割合"が同程度もし くは増加していることから、自己の進路選択や他領域での学びとも相まってキャリア形成がなされてき たものと考えられます。
- ②「相手に思いを寄せる」ことの深まりは、小学校時代から「誰かのためのものづくり」という体験を積 み上げてきたこと、贈った相手に喜ばれ認められた体験の積み重ね、立場の異なる視点に立つ体験をす ることなどを通して、自己肯定感や自尊感情が培われてきたものと考えます。
- ③(2)の生徒の記述からも、相手意識に立つものづくり科が生徒のキャリア形成に資してきたことが読 み取れます。活動の一つの柱である「チャレンジショップ」のための商品づくりや販売活動を通して、 今までは、商品価値や社会の仕組みを消費者としての目線だけから見ていた自分に気付き、製造者や販 売者としての目線に立つ体験から、より広い視野で周囲を見ようとする生徒の成長を読み取ることが出 来ます。こうした学びの場を一層大事にしていきたいものだと考えています。

4 「相手意識に立つものづくり科」実践発表会への参加者の声から (一部抜粋)

- ○毎年2月に、市民・保護者・市会議員等幅広い方を対象に「相手意識に立つものづくり科 実践発表会」 を実施。来場者に自由記述方式のアンケートを実施し、次年度の運営に活用してきている。
- 〇問 「自分のためではなく、誰かのため」に、「相手が喜んでもらえるように工夫してものづくりをする」ということを大事にし、ものづくりを通して子どもたちの「心の成長」を目的にものづくり 教育を進めてきています。こうした取り組みについて、日頃から感じておいでのことについてご 自由にお書きください。

☆ (50 代 男性)

「相手意識に立つ」という視点を大切に、二度づくりや三度づくり、使う人へのアンケート、値段設定の調査等、 単に作って終わりでない諏訪のものづくりのよさが、子どもたちの見方や考え方を広げるとともに、豊かな心を 育てることにつながっていると感じています。

☆ (50 代 男性)

単なる図工でない所に人権教育の視点としても大きな意味を感じています。相手はユーザーに限らないと感じてきています。材料提供者とか、もしかすると「材料」自身にも向けられると思います。そう考えると広がりのある教科だと思っています。

☆ (60 代以上)

私共、高度成長期に働いてきたものは「皆さんに喜んでもらえる技術を開発(製品、商品を含めて)しろ」と言われてきました。相手(マーケット)が受け入れ喜んでもらえる商品の原点ですね。人の想いを大事にしながら心の成長のために頑張ってください。

☆ (50代 女性)

小学校 1 年生から相手意識に立つものづくりを経験し、積み重ねることで大切な心が育っていると感じています。スキルと心が共にスモールステップで歩み続けること、また、時にはプロの方の心意気と知識や技術にふれることは大切だと思います。

☆ (60 代以上 女性)

誰かの役に立ちたいと思う気持ちや誰かの役に立っているという気持ちは、どちらも誰にとっても生きがいにつながる大切な中核だと思いますので、思いやりや優しさを育てる上でも、とても有意義な事と思います。

☆ (60 代以上 女性)

ものづくりは、一度だけでなく何度もチャレンジすることが大事。失敗もあり、想い通りに出来ない事もあり、 それもOK。作る過程が重要。

5 参観日における保護者や担任の感想から (一部引用)

「ものづくり科の学習」 <小学校2年「風鈴」> (参観後の保護者の感想から)

- ・家に持って帰ってきた風鈴を部屋に飾りました。風が吹くと、きれいな音がして涼しい気分になりました。
- ・これから毎夏、心のこもった風鈴の音と過ごせることが嬉しく思います。

「チャレンジショップ」

- ・実際に多くの様々な立場の方々と触れ合うことができ、貴重な時間となりました。(小6年担任)
- ・子ども達も緊張した面持ちで始まりましたが、1枚2枚と自分たちの藍染め商品が売れるのが嬉しいようで、徐々に「いらっしゃいませ。」と声が出るようになりました。おままごとではなく、本物のお金を使っての売り子は初めてだったので、とても貴重な体験をさせていただきました。(小3年保護者)
- ・終わった時とても良い顔をしていたので、きっと良い体験ができたのだろうと思いました。また、チャレンジショップ2年目だったこともあるのか、テキパキやっている姿や一生懸命売ろうとしている姿に成長を感じました。(特別支援学級担任)

◇地域の方々、保護者等からの声を通して

- ①諏訪市の特色ある教育としてものづくり教育を開始して以来、育てたい児童生徒像を伝え、児童生徒の 活動の姿を中心にお伝えしてきた。その結果、広く市民に理解が広がってきている。また、児童生徒の 活動に、ボランティアとしてサポートしていただく方々も増えてきています。
- ②中学校3年生では、日頃から地域の方々に支えていただいていることへの感謝の気持ちを伝えるために、地域の高齢者施設や地域公民館、公共施設等で必要としている物品の製作をし、贈呈することを通して地域の一員としての意識を高める活動も広がりを見せるようになってきています。